

歌声のあふれるクラス(学級歌の推奨) パートⅠ

毎月の音楽集会や儀式的行事での校歌斉唱は、全校の心が一つになる素晴らしい時間です。
今回は、わたしの音楽教育に対する思いをお伝えいたします。

音楽の起源は、有史以前にさかのぼります。ドイツの洞窟から骨でできた笛が発見され、それが3万6千年前のものであり、最古と言われていています。皆さんがご存じのアルタミラ洞窟の壁画が、1万8千年前であることと比較しても、音楽は、全ての文化・芸術の中で一番初めに誕生したものであるのです。つまり、人間のDNAに深く刻み込まれたものなのです。音楽を聴くと心が安らぎます。きれいな旋律を聴かせた続けた植物は、そうでないものよりも長く咲いているとも言われます。音楽は、全ての生命の奥深い部分とのつながりが深いのかもしれません。また、オリンピックやワールドカップなどのスポーツイベントやお祭り、儀式的な催しなどあらゆる場面で人間と音楽は密接に結び付いています。音楽は、戦争をストップさせたこともあります。

大崎先生と実際の学校の場面をもとに、音楽教育の意義を考えてみました。

～歌声のあふれる学校作りをめざして～

- 歌を歌うのはとても気持ちの良いことです。子どもたちの歌声があふれる学校(学級)は明るく穏やかで落ち着いています。
- 気持ちを一つに楽しく気持ち良く歌える学校(学級)は、他のこともできます。
- 音楽の授業の時、歌う表情や声の出し方、声の響きで、その子の心の状態やクラスの様子のパロメーターにもなります。
- 素直にのびのびと歌声が出てくる子は、心が豊かで情緒が安定しています。
- 心が開放していないと歌う気分になれません。クラスがぎくしゃくしていたり、先生との関係にわだかまりがあると、心の底から歌うことはできません。
- 顔と顔をつきあわせ、自分たちの声を通して、コミュニケーション能力を身に付けることができます。
- 自他の良さに気づき、みんなでつくりあげる学習活動が多いです。
- 活動を通して学び合い高め合うことができます。

私は、朝の会や帰りの会に「クラスソング」を歌うという取り組みを、ずっとしていました。私自身が、人生の中で、「音楽に救われた」「音楽で成長した」「音楽で心が一つになった」などのかけがえのない経験をしました。子どもたちにも同じ思いをしてほしいという願いから始めました。(大好きな歌を子どもたちと心を通わせ一緒に歌いたいというのが本音だったかもしれません。)

朝と帰りにみんなで心を一つに歌い一日を気持ち良くスタートして、さようならをする。

子どもたちと歌った数知れない曲やその時の子どもたちの表情は今でも私の宝物です。

今でも、その場面を思い出し、よく口ずさんでいます。

「朝の会は歌を歌う時間的な余裕がない」との言葉もありますが、私は、工夫次第だと思います。次号(明日)では、「具体的にどんな曲をどういった機会に歌ったら効果的なのか」についてお伝えいたします。